日本
ハンザキ研究所ニュース 2012(11)：通巻 No.83
発行２０１２年１１月３０日
〒６７９－３３４１兵庫県朝来市生野町黒川２９２
Tel／Fax:０７９－６７９－２９３９
E-mail：info@hanzaki.net
URL：http://www.hanzaki.net
NPO 法人　日本ハンザキ研究所　栃本 武良

但馬空港における“さわやか環境フェスティバル”

17 日・18 日の両日にコウノトリ但馬空港西側イベント広場において、“但馬まるごと感動市”が開催され環境部門での出展を行った。食と物産のコーナーには多くの食堂や農水産物が並べられていた。目玉は但馬牛の丸焼きのようだったが、あいにくのことに二日共に風雨が強く、排水の悪い会場は水浸しでスタッフが懸命に砕石を入れたり畳ロードを敷き詰めたりと奮闘していた。ハンザキ研のブースはシャトルバスが着いて見学者が真っ先に入場してくる位置にあった。その観客の目をくぎ付けにしたのが全長 130㌢体重 20㌔の巨大なハイブリッド・ハンザキだった。近くで水を取れないので水槽をトラックに積んだまま水を汲みに行ってそのまま車ごとテントに入れて展示することにした。荷台の上であり少々高い位置になるので、踏み台を仮設して上からも覗きこめるように工夫した。

水槽をトラックに乗せたまま展示

テントの中に 1 ㌧トラックの荷台部分を入れたので、ブース内が狭くなったがその分はハイブリッド（カモガワハンザキ）が十分に存在感を示してくれた。おまけにすぐ横には 1 億円のハイブリッド・バスが展示されていたので都合が良かった。車の世界でのハイブリッドの方が有名なので、水槽内のハイブリッドって何なの？という質問も多かったが、これで沢山の人が理解してくれたことだろう。

ただ周辺のブース出展の皆さんには閑古鳥を鳴かせてしまうことになり気の毒だった。おまけに隣には豊岡市竹野町のスノーケルビジターセンターの海・川・森の生き物が並べられタッチできるということで二つのブースは生きている物たちのおかげでの魅力いっぱいで人々をひきつけていた。食い物と生き物は強いということの実証だった。

写真 1　但馬空港での展示ブース

写真 2　ハイブリッド 130 ｾﾝﾁ 20 ｷﾛの迫力

写真 3　覗きこむ子供たち

写真 4　横の展示はハイブリッド・バス 1 億円

写真 5　カワニナの餌の横取り？はタロ君も

写真 6　キツネのロードキル入手

写真 7　ムベなるかな！

写真 8　ガマズミの赤い実は素晴らしい

写真 9　ポンプ・ピットの落ち葉除け

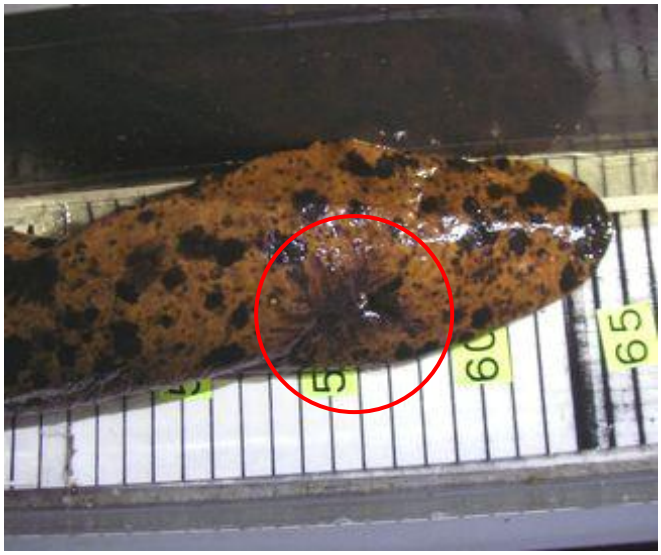


写真 10　左尾に傷が・・・

写真 11　傷のアップは銛傷・・・

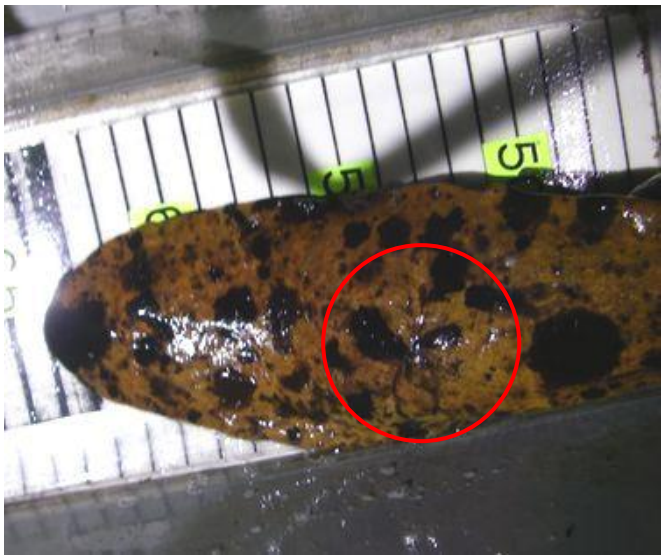


写真 12　尾の右側まで貫通

ハンザキ研の植物アレコレ

① ムベなるかな！

いつも主食のビールと共に私を配達して下さる小椋酒店でムベを見つけた。友人でハンザキ研の会員になって頂いた松下さんの作品とのことだった。一蔓ごと頂いて事務局員に試食してもらったら好評だった。アケビの仲間であるが開実（あけみ）しない。“むべなるかな”という表現は頭の中にあったが、さて本来の意味は何であったのかなと広辞苑を開いてみた。「肯定する意のムベに助動詞ナリ助詞カナが付いた語で“いかにももっともなことであるなあ”」ということだそうである。でもなんとなく私には「まあ、しょうがないかなあ」といった諦め的な感情があるように思える。いずれにしても春になったら種まきをしたいなと思っている。もっとも蒔いた後から小ネズミたちに食われないようにしないといけないが、彼らは本当に鼻が利くのです。

② サンショウ

私はどうも最後の“ウ”が無い方が好きだ。つまり“サンショ”である。この方が歯切れも良くて“ピリッ”と来ると思いませんか？　皆さんは普段「さんしょう」と言っていますか？　「さんしょ」だとおもうのですが・・ハンザキ研の周辺にはサンショがたくさん生えています。新芽の香り、つくだ煮そして今回は兵庫県神河町新田で開発された（昔から地域の方々は自家製のものを使っていたと言っています）“からかわ”を知りました。山椒からかわ佃煮 30ｇ1,260 円というものです。サンショは辛いとよく言われますが辛さではないと思います。夜の川を歩いてハンザキの調査中にサンショの実をつまんで咬むと当分の間は脳味噌がしっかりして眼も冴えてきます。なかなかの良薬です。“からかわ”はサンショの木の皮をはがして佃煮にするのだそうですが、これがなかなかの難物であると聞きましたが、一度挑戦してみたいものです。

市販されている“山椒”の振り出しは大抵が香りが失われていて、いつも残念に思っていました。そこで、ペッパーと同様にミルで挽き立てを振りかけることができるのではないかと考え、サンショの種を収穫しました。沢山の実を付けている木があるのですが、これがなかなかの難関でトゲトゲの枝の間に腕を入れなければならないのです。その種子もいつどの時期に摘んだらいいのか知りません。とりあえず緑色のものを収穫し、次いで少し赤くなって来たものを取って、最後に開果したものを取り込みました。緑色のものは冷凍しておき、秋に取り出してそれぞれを天日に干して乾燥させたものをミルで挽いてみました。全てＯＫでした。香の良いサンショを満喫しています。（実は商品化されていました）

下山したある日、暇つぶしにテレビを見ていたら“ためしてガッテン”という番組の再放送中でした。緑色の内に収穫した種子を冷凍保存するところまでは正解でしたが、色々な効用については正に目から鱗の話の連続でした。我が愛すべきサンショの効用については、ビデオを見て後日皆様にご紹介したいと考えています。

朝来市山東町におけるハンザキの夜間観察会

昨年からの朝来市教育委員会主催のイベントである。ハンザキ研から山を越えると円山川の支流である与布土川（よふどがわ）が山東町内を縦貫して流れている。この川では目下、与布土ダムが県土木によって建設中である。7・8・10 月と生野町市川のハンザキ研のフィールドでの観察会があって、山東町では今年も 11 月の寒さの中での観察会となった。講師は岡田副理事長にお願いして 6 個体の測定も実施できた。最後の個体の測定中に尾に傷があるのでよく調べてみたら、右側まで貫通していた。比較的新しい傷なので、今年の夏に突かれたのであろう。どうも、人間の狩猟本能は大物を見つけると思わず銛を突き出してしまうのかもしれない。市川では銛やヤスの漁は禁止されているにもかかわらず、9 月に卵を守っていたかもしれないオスが突かれた。困ったものだ。山東町では地元の“カエルの郷”のグループが今年も現場作業を引き受けてくれたが、やはり地域の方々のバックアップは大切だ。

与布土川は、目下ダムの建設が進められており事前調査も含めて今回も新規個体が 1 個体加わり 74 個体の登録になっている。私の主調査水域ではなかったが、これから長い時間をかけて観察会が続けば貴重なデータが得られるだろう。今回の測定でも 3 個体が 8 年間ほどの追跡で、歴史は浅いが継続させることが大事なことだ。それにしても 8 年間で 13 回もの捕獲個体は、大変に協力的なハンザキだ。

・・

カモガワ・ハンザキのマスコミ・フィーバー

10 月末に朝日新聞夕刊の第 1 面に賀茂川のハイブリッドが紹介された。今までも、何回かの報道があったのであるが、今回は朝日新聞の扱いが大きかったようで、読売 TV,毎日 TV,NHK・TV と新聞数社の取材があった。11 月下旬に 5 回ほどの報道が立て続けに行われたので、ご覧になった方も多かったのではないかと思います。ただ残念なのは、怪獣扱いで騒ぎ立てるのみという報道姿勢が目立つことである。最近のマスコミは騒ぐだけ騒いで後がどうなっても知らん顔というものが多いのが気にかかる。騒げばいいというものではないと思うし、最も大切なのはどうしてこんなことになってしまったのか原因の追及と対処法を啓発すべきことだと思う。

カモガワ・ハンザキは一儲けをたくらんで中国からチュウゴク・ハンザキ 1 ㌧（800 匹？1300 匹？）を輸入した人物がいて、これを購入して料理を提供していた店があったといい、マスコミに批判されて京都加茂川に密放流したために、日本のハンザキとの交雑が起こった結果出現したものらしい。こんなことが簡単に実行されてしまう日本人のルーズな考え方が問題なのだと思う。一昨年から 6 年間の文化庁補助事業で最終的にどのくらいの個体が収容されるのかしれないが、賀茂川からすべてを取り出すのは難しいのではないかと思う。収容された個体の処分も必要になってくるだろう。

今月の調査から

15 日に会員の田口夫妻が魚ヶ滝周辺での夜間調査を実施した。結果は 12 個体の測定で全てが再捕であった。№254 は 1980 年 8 月に登録されて 18 回目の測定で 32 年 3 か月間の追跡個体で、田口さんが生まれる前に登録した個体である。75ｾﾝﾁから 81ｾﾝﾁと田口さんに比べるとわずかな成長で 6ｾﾝﾁの成長しかなく、体重も当初 2.95ｷﾛが今回も 2.9ｷﾛであった。しかし、途中経過をみると 23 年目頃に 85ｾﾝﾁ（3.95ｷﾛ）、今年は 3 回の測定が 81（3.40）・88（3.15）・81（2.90ｷﾛ）ｾﾝﾁという測定値が残されている。単なる測定ミスなのか、全長は餌を取れなくて体重が減ると縮むことがあるのかなどと考えさせられる。当初は右後肢が 1 本の突起が残るだけであり、25 年目には右前肢の第 3 指が無くなった。現在はさらに左前肢の第 2・4 指が短くなっている。右後肢や右前肢の指は再生していない。8～9 月の繁殖盛期に測定したのは 3 回だけでオスのシンボルの隆起は 1 回だけしか確認できていないが、指の欠損が増えるのはやはり繁殖期のオス同士のバトルの結果だろう。

№450 は 1988 年 10 月以来 17 回測定し 24 年 9 か月の追跡中である。63ｾﾝﾁから 77.5ｾﾝﾁと 14.5ｾﾝﾁの成長だが良い成長とは言えない。当初の 12 年間は簾野地区で 5 回確認され 4 年後に少し下流で発見、さらに 5 年後には魚ヶ滝地区まで下り現在まで 3 年間は落ち着いているようですが、魚ヶ滝を超えて元の水域には戻れないようです。体重の方は当初 2.29ｷﾛから途中、最大が 4.90ｷﾛになったが、現在では 2.55ｷﾛです。

№691 は 1998 年 3 月に写真登録した後、同年 10 月にマイクロチップ登録した個体です。この年からマイクロチップの挿入が始まったのですが、その影響は全くないようです。18 回の測定で 14 年 6 か月間の追跡で 795ﾐﾘから 830ﾐﾘの間を上下する全長を示しています。体重の方は最大 5.2ｷﾛあったのですが現在は最低の 2.75ｷﾛになっています。

№701 は 1998 年 3 月から 7 回の測定があり 14 年 8 か月間の追跡で 88ｾﾝﾁから 91ｾﾝﾁという遅々たる成長ですが、簾野からハンザキ研まで遡上してきて、7 か月後には最下流の魚ケ滝水域まで下がって今回確認された。何回かの大水があったので流されたのでしょう。

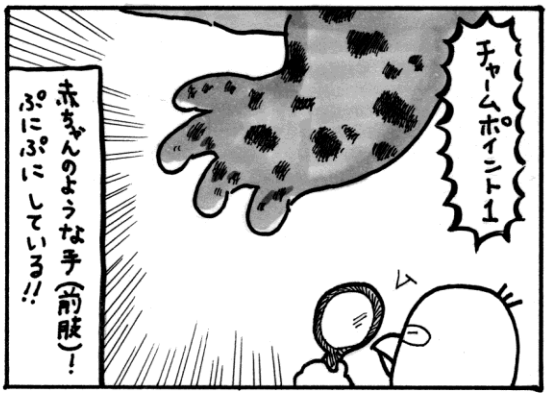
・・

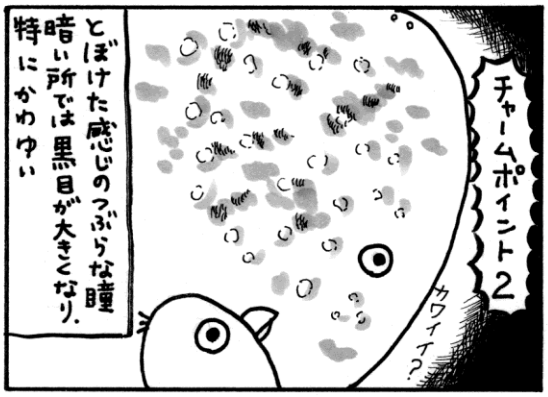
ハンザキ所長の自慢話③

悪乱筆の生涯

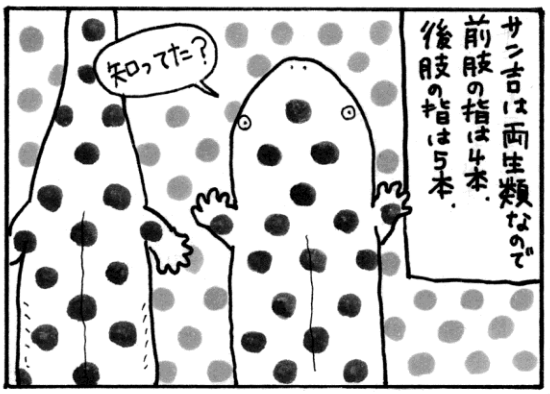
小学校 1・2 年頃の担任から、丁寧に字を書きなさいと注意されたのが始まりだった。その後も悪筆乱筆は一向に直ることは無く進行した。受験で損をするぞと脅かされたり、飼育係からなんて書いてあるのか分からないなどとクレームを付けられてきた。ある年の正月、休憩室で 5 人ほどの飼育係が 1 枚の賀状を囲んでいたところに通りかかった。一人がからかい半分で「館長これ読めますか」と呼びかけてきた。苦もなく乱筆を読み解いたので尊敬？された。極意は 1 字ずつ拾い読むのではなく全文をサッと流して読んでみることだ。我流の速記は得意だが、アラビア文字圏などではどうなっていたことかと思う（続）。

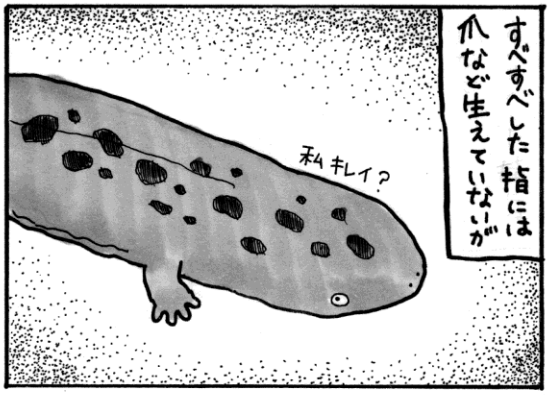
その19　魅力

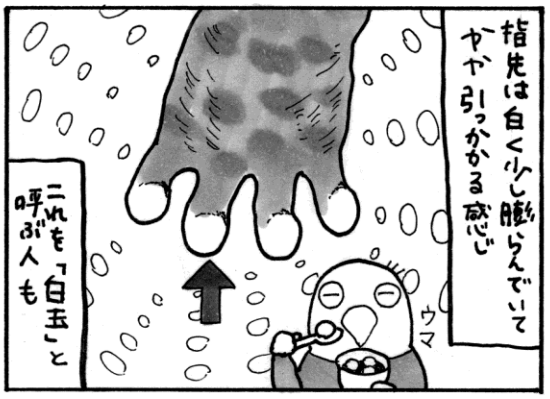


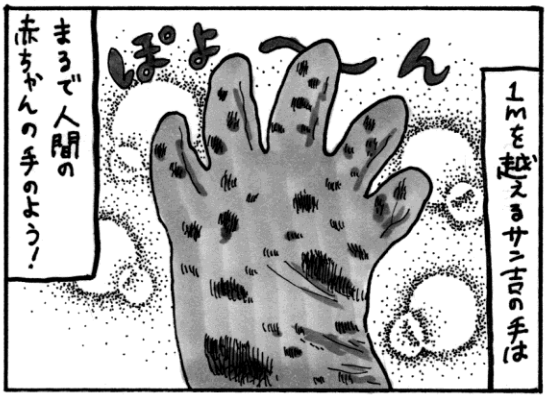


その20　前肢（手）









サン吉：オオサンショウウオ
川にすむ王さまである

トリ子：トリ型宇宙人
地球を征服するべく サン吉の生命力をさぐっている

ハンザキ研日誌　　　２０１２年１１月

２日　キノコ定期調査（横山了爾先生他４名）
３日　毎日放送取材、カモガワハンザキについて
４日　・但馬ウォーキングクラブ 40 名見学に
　　　・前田常雄先生植物調査に、三輪氏と横谷、法道谷チェック
６日　シマサルナシの大木？に実が一つも付いていない
７日　・読売テレビ取材、カモガワハンザキについて
　　　・植物調査、前田先生と奥藤事務局長、柏谷と銀山湖左岸
１０日　・ボランティア作業、6 名参加
　　　・京都教育大学相澤先生他 5 名見学に
１４日　上水４か所の凍結防止処置
１５日　田口研究員、夜間調査で 12 個体測定
１７日　兵庫県環境フェスティバルに出展、但馬空港にて
１８日　　同上２日目
１９日　・円山川水系自然再生推進委員会、豊岡市立図書館にて
　　　・読売テレビ“す・またん”でカモガワハンザキ放映
２１日　NHK テレビで“賀茂川紀行”カモガワハンザキ放映
２２日　MBS テレビ“VOICE”でカモガワハンザキ放映（近畿圏で）
２３日　橿原市立昆虫館より２名視察に
２４日　ムベの果実受増
２５日　・事務局会議９名
　　　・朝来市教育委員会主催“山東町オオサンショウウオ観察会”岡田副理事長講演
２７日　北星社戸田さんほか取材に
２８日　・浄化槽定期検査
　　　・MBS テレビ“VOISE”でカモガワハンザキ放映（全国ニュース）
２９日　・BS で“カッパの正体”でカモガワハンザキ放映
　　　・キノコ調査

・・

ハンザキ所長のツブヤ記録

自慢話は鼻持ちならぬものと相場が決まっている。でも、自慢したいのが人情なのだろうかとも思う。①では女優の竹下景子さんの話を②では公立の水族館長を兼任の話を紹介させていただいた。この二つの内容は、私自身の心の中では意外な展開の結果というものであり、特に自慢というよりもこんなことがありましたという紹介にすぎないところです。皆さんはいかがお考えでしょうか、これからも続けていこうと考えているのですが・・・